

# 岩<sup>ガ</sup>大<sup>ン</sup>美<sup>ダ</sup>術<sup>イ</sup> 美術<sup>ビ</sup> 術<sup>ジ</sup> 術<sup>ユ</sup> 術<sup>ツ</sup>

Iwate University Art & Design

岩手大学で学べる美術とデザインの研究領域

人文社会科学部 人間文化課程 芸術文化専修プログラム / 教育学部 学校教育教員養成課程 中学校教育コース 美術サブコース





夏の暑さもいとわずに肌を焼き  
冷たい雪に飛び込んで泳ぎ  
怪我也恐れず木に登り、水たまりを飛び越え  
小さな生き物を見つけては  
大きな凶鑑を眺めながら眠った  
あの頃。



私は懸命に  
小さいものを集めていた。

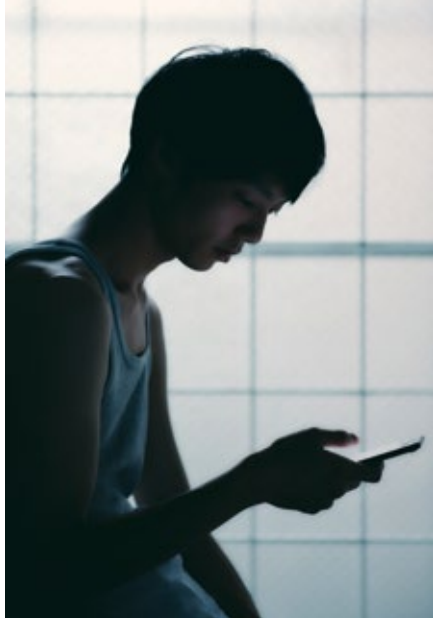


私がまだ小さかった頃の話。

すべすべした木の実  
オレンジの匂いの消しゴム  
角の取れたガラスの欠片  
道に落ちた錆びたワッシャー  
トンボの羽

ふわふわのモール  
6色のボールペン  
キャンディーの包み紙  
トイレトペーパーの芯  
猫に見えた小石

体と頭が大きくなると  
「美しい」は拡大した。  
世界中の「美しい」が画面を通して  
手に入ったような気になる。  
あの頃の小さな「美しい」の存在が  
見えなくなってしまいうくらいに。



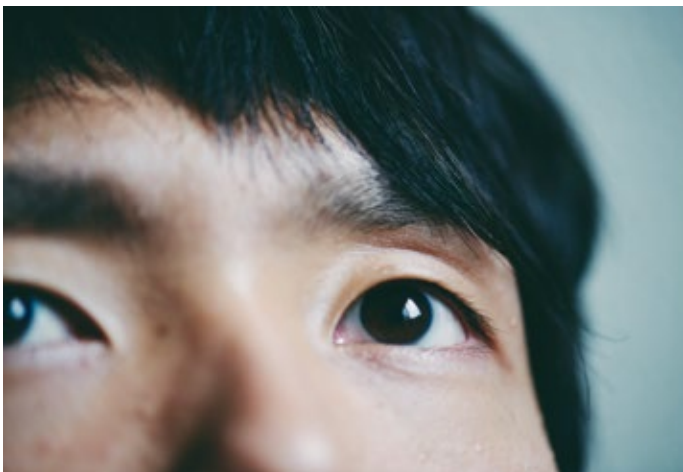
私はこの小さいものたちと  
対話していた。  
喋ることのない小さな存在が  
私の目にはとても魅力的に映り  
訴えかけられていた。  
とても重要な存在だった。  
生活のほとんどが  
その小さい存在に占められていた。

私は「美しい」を探していたのだ。



私の探していた「美しい」は  
どこにいったのだろう。  
あの小さな体と頭で日々感じとっていた  
「美しい」はどこにいったのか。  
もうなくなってしまったのか。  
そもそも「美しい」は何の役に立つのか。  
「美しい」はこの社会のどこにあるのか。





よく見ればたくさんあるのかもしれない。

お気に入りの赤いマフラー  
雨を弾く滑らかな曲線の傘  
公園の大きな彫刻  
昨日食べたハムサンドの断面  
喫茶店の淡いブルーのコーヒーマップ  
古い神社の竜のレリーフ

あなたは「美しい」を創る人ではありませんか？  
あなたは「美しい」を探す人ではありませんか？  
私たちはあなたを待っています。

実は知らないうちに私たちは  
たくさん「美しい」に囲まれていて  
そしてそれが人の心を豊かにしていく。  
もっと「美しい」を知れば  
もっと「美しい」が世界に多くあれば  
自分も、誰かを豊かにできるかもしれない。



私は「美しい」を創る人でありたい。  
私は「美しい」を探す人でありたい。



2018年1月に合同会社を設立した清水さん。「homesickdesign」は清水さんが大学院生の頃から使用していた屋号です。「自分だけがよくなることは全然嬉しくありません」と言う清水さんは、その想いのもと、グラフィックデザインのみならず、ギャラリーの運営、教える仕事、と活動の範囲を広げてきました。



「美しい」を考える仕事

合同会社ホームシックデザイン / アートディレクター 清水 真介

Q どんな仕事をしているのか教えてください。

お店や企業のロゴやパッケージ、フライヤー、ポスターなど様々なグラフィックデザインを行っています。他にも「Cont art gallery」の運営や「盛岡情報ビジネス専門学校グラフィックデザインコース」の非常勤講師を務めています。

Q デザインの仕事を始めたいきっかけを教えてください。

高校生の頃、美術部に所属していたこともあって、学校行事のポスターを頼まれて作っていたんです。そこからデザインに興味を持って、大学では紙と印刷の研究をしていました。自分でお金を貯めて、印刷の工程すべてに関わらせてもらいながらポストカードを作ったりして。そういった経験から「デザイナーになろう」と意識するようになりました。本格的にデザインが仕事になったのは大学院生の頃。知り合いからラベルのデザインを依頼されたのがきっかけでしたね。

Q アートディレクターとはどのようなことをしているのですか？

デザイナーやカメラマンなどと一緒に仕事をする上で、視覚的なイメージを統一するために「どんなものを制作するのか」

方向性を提示する仕事です。ただ、意識していることは「なにかカッコいいものをつくりたい」とか、そういう表面的なことではありません。

Q 見た目をよくすることがデザインの目的ではない？

デザインを入り口に「クライアントの問題を解決する」ことが一番の目的です。クライアントと正直に意見を共有しながら、その人の内面からにじみ出てくるものを形づくる。そうしていると一緒に並んで問題に立ち向かっているような感覚になって、解決方法に辿りつけるんです。

Q これから「美しい」を〇〇する仕事に携わろうとする人へ、伝えたいことはありますか？

自分の考えを他の人に「無理だ」と否定されても、怖がる必要はありません。「なりたいたいものになる」方法は色々あって、それぞれ自分に合う方法がきっとあると思う。まずはそのたくさんある方法を知ることが大切だと思います。

しみずしんすけ / 平成18年度修了。盛岡のデザイン事務所「homesickdesign」代表。JAGDA会員。2017年8月の若手AODコンテストで「アワード」にてグランプリを連続受賞。a.47ミュージアムで開催された「NIPPONの47人 GRAPHIC DESIGN」では岩手代表に選出された。クライアントの本音の問題を見つけ出し、一緒に並んで歩くパートナーになれるような存在を目指しデザインに取り組みたいです。



盛岡市桜山に店を構える「ななしの庵」。岩手の食文化や風土が伝わるように工夫されたコース料理を提供しています。石川さんは、お店に立つ良さを「人との出会いが醍醐味」だとお話してくれました。



「美しい」を活かす仕事

ななしの庵 / 料理人・画家 石川 優太

Q どんな仕事をしているのか教えてください。

岩手の食材を中心としたコース料理とお酒を提供している「ななしの庵」で料理人をしてながら、画家としても活動しています。お店は、あえてカウンター6席のみ、完全予約制、料理もおまかせというスタイル。ひとりひとりのお客さんとの距離を縮めて、高い満足度を与えられるような工夫を日々続けています。

Q 今の仕事を始めたきっかけを教えてください。

学生時代から、自分を表現したり、人に何かを与えられるようなことに興味があり、絵画の制作に取り組んでいました。料理に関わるようになったのは、大学生になってから飲食店のアルバイトを始めたことがきっかけです。なぜ今料理の仕事を選んでいるかというと、自分が食べ物やお酒が好きだということはもちろんあるのですが「食事」という行為、また、それに関わる環境そのものを総合芸術的だと考えていることが大きいです。料理やお酒だけじゃない、店内のしつらえや器ひとつひとつまで、料理人のアウトプットを全部加味して体感できる場を「食事の場」と捉えて仕事をしています。

Q 料理人と画家としての活動、それぞれ意識的な違いはありますか？

絵画は、観てくださる方たちに自由な観点で楽しんでいただくと嬉しいなと思っています。一方お店で料理を提供するのは、料金をいただくことが前提になるので、お客さんが「美味しい」「楽しい」と感じることに繋がらなければいけません。なので、確実にお客さんに満足してもらえるようにしたいという意識のもと行なっています。

Q これから「美しい」を〇〇する仕事に携わろうとする人へ、伝えたいことはありますか？

大学で美術について学ぶことは「美しいものとはこれだ」という勉強をすることではないと思います。美術に関わることで育まれる心の一面は、生活を一生豊かにしてくれる。自分のように、美術の枠から離れたことをする時にも、ずっとそばにあるような感覚を得ることができると思います。

いしかわゆうた / 平成16年度卒業。盛岡市桜山にある「ななしの庵」亭主。岩手の食材を中心としたおまかせ料理と、自ら訪ね歩いた造り手のお酒を提供しています。また、画家として、主に絵画作品の制作に取り組み、岩手の地酒「南部美人」のラベル制作などを手がけました。トーキョーワンダーウォール2016入選・受賞など、参加展示会多数。



岩手大学ではプロダクトデザインを学んでいた斎藤さん。現在はソフトの使い方やプレゼン指導等、建築やインテリアに関わる「基本的なこと」を指導しています。教師を務める上で意識していることは、学生の意見を尊重しながら、授業の場を「学生と一緒に作る」ことです。



「美しい」を教える仕事

盛岡情報ビジネス専門学校 / 教諭 斎藤 公美

Q どんな仕事をしているのか教えてください。

盛岡情報ビジネス専門学校デザイン科建築インテリアコースで教師をしています。

Q 仕事を始めたきっかけを教えてください。

教師は中学生の頃からなりたかった職業です。当初は好きな教科だった理数系の教師になりたいと思っていました。しかし、部活動で美術部に所属してから、理数系の教科とは違って、正解を導くために行うのではない美術のおもしろさを知って、美術に関わる仕事に就きたいなと思うようになり、美術科のある大学に入ろうと考え始めました。岩手大学を選んだのは、4年間しっかり勉強がしたいということ、教育に興味があったこと、あとは学部がたくさんあるので、色々な人と接することができそうだなと考えたからです。大学を卒業してからは、塾の講師をして、その後知人からの紹介を受けて、今の仕事に就きました。

Q 美術、デザインを教えることで心がけていることを教えてください。

私から学生に対して、「これが正しい」と答えを教えるようなことばかりしたくないなと思っています。もちろん正しい

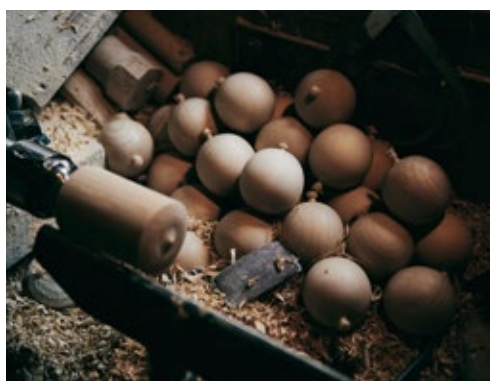
ことを伝えないといけない場面もありますが、学生へ「一辺倒に「学校だからこうしなさい」というのはやめたいな」と思っています。例えば授業中に「喋ってはだめだ」ということではなくて、喋っていてもいいから、作業が捗っているほうがいい。私が学生に対して何か提案した時に、生徒の方から「こっちがいい、もっとこうしたい」という意見が出ることもあると思う。押さえつけるような教育ではなくて、みんながなるべく活発に行動できるような指導をしたいなと思っています。

Q これから「美しい」を〇〇する仕事に携わろうとする人へ、伝えたいことはありますか？

「進路を選択する」というのは、自分自身による、自分のための選択です。環境は環境でしかないと思うので、学校のカリキュラムに頼るのではなくて、その学校の環境を利用して、自分のやりたいことを実現しようとするくらいの意気込みを持って行動するのがいいのではないかなと思います。

さいとうくみ / 平成22年度修了。関東で学習塾の教室長を経験した後、盛岡情報ビジネス専門学校デザイン科の教師となる。常勤職員として担任を持ち、学生の生活指導や進路指導をしています。授業はIllustrator、Photoshop、デザイン、色彩概論といったデザインの基礎的科目をはじめ、建築インテリアコースの専門授業を担当。

「美しい」を残す仕事



五葉社では1年間に約100種類のこけしや郷土玩具が制作されています。「まだすべての作業ができるわけではないんです」と言う田山さんは仕事で悩みを抱えても、「やめずにコツコツ続けることを意識しています」と話します。

五葉社 / 職人 田山 和泉

Q どんな仕事をしているのか教えてください。

五葉社では、こけしや郷土玩具を製造しています。製造しているのは父と私のふたり。原木を加工するところから絵付けなどの仕上げ作業まで、製造の工程すべてをふたりで行っています。これまで18年間この仕事に携わっていますが、私はまだすべての行程をひとりで行えるわけではありません。これから少しずつ、できることを増やしていきたいなと思っています。

Q 今の仕事を始めたきっかけを教えてください。

もともと幼い頃から、ものづくりや工作が好きでした。父の仕事を手伝い始めたのは、高校2年生になってから。手伝いを続けるうちに、徐々に仕事を覚えていきました。大学に進学した理由は、そのまま仕事を続けるのではなくて、色々な人と関わりを持ってまだまだ自分に足りないことを鍛える時間を作りたいと考えたからです。と言いながら、大学に在籍していた頃も授業の時間以外は、仕事の手伝いばかりしていたんですけどね。

Q 五葉社はお父さまの代で3代目と伺いました。こけし、郷土玩具づくりに関わる

上でどんなことを意識していますか？

この仕事は、これまで続けてきた方々がいるからこそ残っているものだと思います。なので、この先も続けていく人がいないとなくなってしまう。そう考えると、製造できるものが少なくなったり、工房の規模が小さくなったりしても、作り続けていかなくちやいけな。これからこの仕事が残っていくような仕組みを整えることが、自分の役割なのかなと感じています。

Q これから「美しい」を〇〇する仕事に携わろうとする人へ、伝えたいことはありますか？

自分が「これをやりたい」と感じることに出会ったら、その想いを貫いて行動してほしいなと思います。きっとその自分が抱いた想いは、その後の未来に繋がることだと思う。自分のやりたいことを全面的に出すこと。そういう想いを大切にしてほしいと思います。

.....  
 たまみずみ / 平成15年度卒業。平成16年に伝統こけし、チャグチャグ馬コ、郷土玩具を製造する「五葉社」に入社。父から継承した伝統こけしは、キナキナ、安保一郎型を制作しています。代々受け継がれてきた伝統を守りながら、新しいこけしのあり方を日々模索中。盛岡らしさを大切に、地域に根ざした作品づくりを目指しています。主な受賞歴として、第60回全日本こけしコンクール読売新聞東北総局賞、第63回全国こけし祭り審査員奨励賞など。



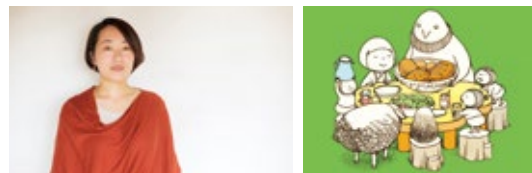
## さまざまなフィールドで活躍する卒業生

GRADUATES INTERVIEW



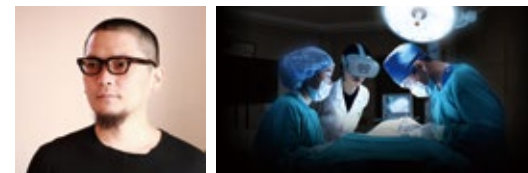
岩手県立水沢工業高等学校 美術教諭  
**穴戸 笑子** (平成21年度修了)

在学時、版画を学ぶ。特別支援学校での常勤講師を経て、平成25年度より美術教諭として県内公立高校に勤務。表現すること、想像することの楽しさを一人一人に感じてもらうこと。美術の学習を通して、身の回りの生活に息づく「美しさ」に気づき、心豊かに生きていく力の育成を目標に、日々の授業や部活動指導に励む。技術・知識の幅を広げるべく、自身も制作活動を続ける。平成21年度岩手県美術選奨受賞。



イラストレーター・デザイナー  
**さいとう ゆきこ** (平成14年度卒業)

デザイン事務所勤務、岩手大学教育学部芸術文化課程技術補佐員を経て独立。書籍の装画、キャラクター制作、ノベルティや雑貨のプロデュースなど、イラストレーションを中心としたデザインを手がける。主な仕事に、県立児童館いわて子どもの森イメージキャラクター・空間デザイン、柏葉幸子「岬のマヨイガ」(講談社)の装画・挿絵など。



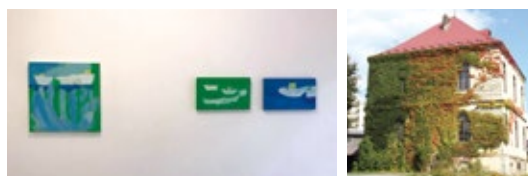
株式会社 JOLLY GOOD / クリエイティブディレクター  
**丸山 あずみ** (平成16年度修了)

デザイナーとして地方TV局でキャリアをスタート。2008年から博報堂DYグループに転職し、大手メディア・クライアントとの事業開発に数多く携わる。2019年、株式会社 JOLLY GOOD に参加。Cannes Lions 金賞、電子書籍大賞グランプリ等、国内外で受賞多数、Cannes Lions 2016 Speaker、始動 NextInnovator 2017 SV選抜メンバー。



白岩焼和兵衛窯 / 陶芸家  
**渡邊 葵** (平成16年度修了)

岩手大学大学院修了後、京都府立陶工高等技術専門学校研究科修了。同校講師を務めた後、2011年から家業である秋田県角館町の窯元「白岩焼和兵衛窯」で制作を行う。現在、各地での個展・グループ展を中心に活動中。2014、2015年には「あきたの美術」展の出展アーティストに選出された。江戸時代から伝わる白岩焼の伝統と風土を生かした現代の生活に合う作品づくりに取り組んでいる。



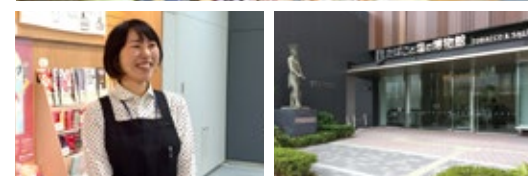
旧石井県令邸 管理者・画家  
**千葉 幸子** (平成20年度修了)

旧石井県令邸(盛岡市保存建造物)の管理者を務めながら、画家の活動を続けている。2003年から毎年、旧石井県令邸でグループ展を開催。2017年早坂幸子展(諄子美術館/北上)2017年岩手県芸術選奨・美術選奨受賞。2018年 galleryCamellia(奥野ビル/銀座)で早坂幸子展「夕焼けの海をプカプカと一開催。ほか、グループ展に多数参加している。



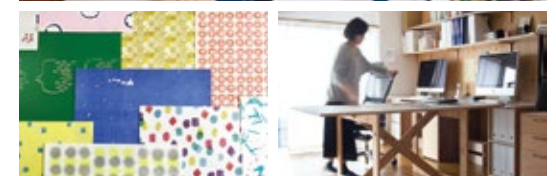
紙町銅版画工房代表・版画家  
**岩瀬 俊彦** (昭和63年度専攻科修了)

2001年、盛岡市上ノ橋町に「紙町銅版画工房」を開く。銅版画などの作品制作、消しゴムはんこの受注制作を行う傍ら、銅版画教室も運営している。2011年から「もりおか中津川まち歩きスタンプラリー(通称:紺スタ)」のスタンプ制作を担当。2015年岩手県芸術祭版画部門・芸術祭賞受賞。2016年萬鉄五郎記念美術館八丁土蔵ギャラリーにて個展「結晶の庭」を開催。



たばこと塩の博物館ミュージアムショップ / 販売・企画  
**ちばさなえ** (平成19年度修了)

店頭での接客販売、オリジナル商品の企画、店頭で販売する商品の選定などミュージアムショップ全体の運営を担当。商品の仕入れは、企画展に関連する商品を中心に季節感を意識しながら、展示ごとに変化する客層に合わせてセレクト。来るたびに何か発見できたり、驚いたり、立ち寄ることが楽しくなるようなお店づくりを目指している。



デザイン事務所「kasi」 / アートディレクター・デザイナー  
**千葉 佳子** (平成19年度卒業)

岩手県出身。株式会社ナカムラグラフィに勤務した後、独立。デザイン事務所「kasi」を設立した。雑誌、書籍をはじめとしたエディトリアルデザインを中心に活動。「dancyuパスタの本」、「いちばんおいしい家カレーをつくる」、「にんじん、たまねぎ、じゃがいもレシピ」、「飛田和緒の朝にらくする春夏秋冬のお弁当」「うまい!にはワケがある 高太郎のご馳走つみみ」等のレシピ本を多く手がける。

## さまざまなフィールドで活躍する卒業生

GRADUATES INTERVIEW



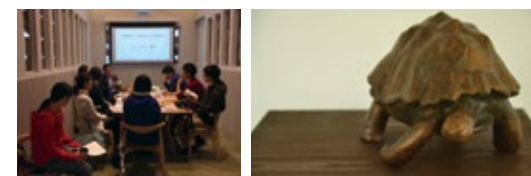
北上市教育委員会教育部文化財課／主査  
小原 芽衣 (平成28年度修了)

在学時、金属工芸を学ぶ。現在は北上市教育委員会教育部文化財課に所属している。主な業務は文化財の保護や普及、開発によって破壊されてしまう遺跡の記録・保存。考古学や発掘調査は未経験ながら、発掘作業では金属製品が出土するなど、大学で専攻していた分野と通じる部分があり、とても興味を持って仕事に取り組んでいる。



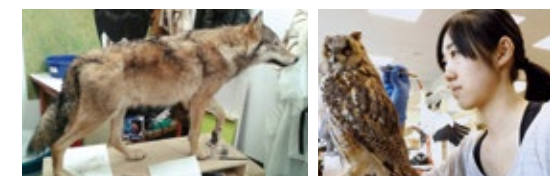
栃木県市貝町教育委員会 文化財担当  
三村 典弘 (平成20年度卒業)

在学中は金属工芸を学び、真土(まね)による青銅鑄造を中心に研究。現在は文化財関連の部署に所属し、主に文化財の保存修復に関することや資料館の展示、埋蔵文化財の発掘や利活用に関する仕事を行っている。制作からは離れたものの、研究していた内容が文化財や考古学に関連していたことから専門性の高い業務にも携わる。



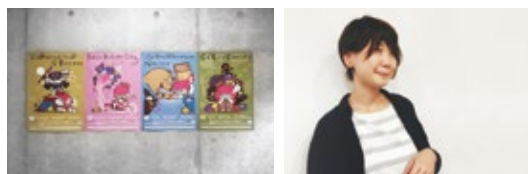
学芸員・工芸家  
齊藤 未来 (平成22年度卒業)

岩手大学卒業後、東京藝術大学大学院美術研究科工芸専攻修了。現在は八戸市で学芸員として働いている。同市内で活動している学芸員(有志)同士の勉強会に参加し、自主的にイベントを開催している一方、様々な角度から美術作品への理解を深めることを目的に作品制作も行っている。美術とは何か、表現とは何か、大事な事は何なのかを伝えられる作家、学芸員を目指している。



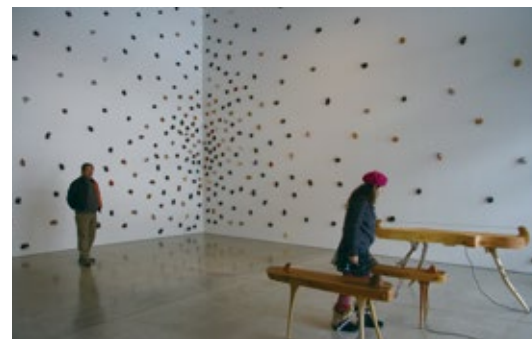
LWL自然史博物館／動物学標本作製技師  
佐藤 成美 (平成22年度卒業)

大学卒業後、ドイツの様々な自然史博物館で研修・職業訓練を受講し、同ミュンスター市にあるLWL自然史博物館で動物学標本作製技師を務めている。主な業務は、動物の剥製等の標本作製、模型制作、ジオラマ等の展示制作や収蔵標本の保存修復など。動物学、解剖学、造形力など多くの能力が求められる。2017年にはバプロ・ピソ美術館とのコラボ展示制作も担当した。



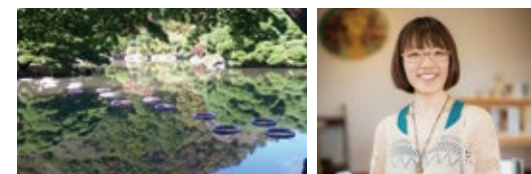
イラストレーター・作家  
はるかんばん (平成24年度卒業)

秋田県大仙市出身。大学で版画を学ぶ。印刷会社とデザイン事務所でのデザイナー経験を経て、フリーランスのイラストレーターに。現在は絵本の挿絵などを手がけるほか、東京を拠点に展示・ワークショップなどを開催。誰かの日常がすこしわくわくするようなものがつくれるよう、媒体の枠を越えて活動に取り組んでいる。



アーティスト  
出町 隼人 (平成14年度修了)

青森県生まれ。岩手大学教育学部特設美術科にて版画を学ぶ。以来様々な形の表現を追求し、発表してきた。現在は東北の地で思考可能な表現を模索し、制作活動に取り組んでいる。2008年度岩手県美術選奨受賞。主な展示会に2004年「時の変容」アートポイントブラック、フィレンツェ・イタリア。2014年「エクサントリシテ」Cygアートギャラリー。2016年「ビジョンオブアオモリvol.13」国際芸術センター青森。



田舎labo／研究員  
菊池 麻衣 (平成16年度卒業)

盛岡市内のデザイン会社に勤務した後、花巻市に「田舎labo」をオープン。商品の買い付けや開発、ワークショップ・展示会の企画運営等を担当している。その他、個人の仕事として、ニードルフルトの受注制作やカルチャースクールの講師を務め、これまで「庭園アートフェスタ」や「ビハインド・ザ・ガーデン」などの企画展へ参加。現代美術と染織の間のような作風で活動中。



映画監督・脚本  
岩渕 崇 (平成14年度卒業)

大学在学中、盛岡にて自主制作映画祭を主催。卒業後は奥田瑛二、天願大介、林海象、橋口亮輔、大根仁らが手がける映画作品に助監督として参加した。監督作品「岩手日報記念号外サービスイWATTE」(2011)はカンヌ広告祭メディア部門金賞を受賞。そのほか監督作品として、TVドラマ「ワカコ酒」、「居酒屋ほったくり」などがある。

# 企業や地域と連携する

## 商品デザインする



久慈琥珀 ウォレット&カードケース



書店で売るための醤油のデザイン



パソコンソフトの  
パッケージデザイン

デザインの力で  
地域企業を後押しする

授業だけではデザイン業の現場を学ぶ機会が不足しているため、企業と連携し、学生が企業とのプロジェクトに参加する機会を設けています。企業の人とどのように関わり、商品をどのように売り込んでいくのかを実践的に学びます。制作したものが、商品化される事もあり、自分のデザインした商品がお店で売られ、消費者のもとに届く時の感動は、授業だけでは得られないものです。2014年以降、90社以上と契約を結び、例えば、琥珀を用いたグッズはロングセラーの商品として販売され、さらに、eラーニングソフトのパッケージデザインでは売上が3倍近くになり、業界のシェアで10%に伸びたなど、地域企業をデザインの力で後押ししています。

## ヴィジュアルカルチャー



雪原戦隊アスタリスク



盛岡アセットマネジメント



遠野萌えキャラプロジェクト

ヴィジュアルカルチャー  
で地域連携(自己表現から地域貢献へ)

ヴィジュアルデザイン(VD)研究室では、各自の自己表現を大切にしながらも、地域貢献に向かう仕組みを構築しています。「地域課題解決プログラム」では、学外の社会人の方々と連携し、地域の課題を解決するコンテンツづくりを実施。具体的な取り組みとして、萌えキャラを制作し、集客やグッズ展開をする「遠野萌えキャラプロジェクト」や、岩手のスキー場をPRするための漫画「雪原戦隊アスタリスク」の制作。他にも、盛岡市の成人式で新成人に配布する、公共施設の維持管理問題を解説する漫画「盛岡アセットマネジメント」の制作など、個人制作にとどまらず、地域と連携したプロジェクトに取り組むことで、企画力のある人材を育成することを目的としています。

## フィールドワーク



盛岡ハリストス正教会



山下りん関連図書

身近な歴史や文化に触れ  
知識を深める

「美術史入門」の授業では、地域にある美術作品について理解を深めることを学習目標の一つに掲げており、本学の地域関連科目に指定されています。その学びの一環として、大学キャンパス付近にある盛岡ハリストス正教会に所蔵される、明治の女性イコン画家山下りんの作品見学を行っています。普段、信者の方のみ開放されている教会ですが、毎年ご厚意で本学の学生のために特別観覧を許可していただいています。教員による講義では宗教美術や山下りんの画業について学び、当日は教会の方に解説していただきながら、学生たちが教会内を自由に見学します。毎年、正教会に初めて入る学生がほとんどで、講義を離れ、建物や作品を実際に鑑賞することで興味が増し、気がついたことについて熱心に質問する姿が印象的です。

## 岩手大学アートフォーラム



平泉国際交流展(2011~2014年)



美巡(2009年)

アートを媒体として  
地域とつながる  
岩手大学アートフォーラム

2008年に発足した岩手大学アートフォーラムは、地域に密着した国際的な視点を持ちながら、北東北の固有の土壌を守り、進化した形で芸術文化の拠点としての役割を担うため、様々な活動を支援する目的で立ち上げました。これまでに、地域の芸術文化を掘り下げるための調査「美巡」(2009)を実施。また、世界遺産に登録された平泉文化に連携した「平泉国際交流展」(2011~2014)では、海外作家を含むアーティストレジデンスやその作品の巡回展を開催しました。2015年からは、地域に開かれた学びの場の創出を目指し、岩手大学アートスクールを染織、窯芸、銅版画、木版画の内容で開講しています。また、2016年からは、地域の美術資源と人とのネットワーク形成事業として「いわて美術茶話」を立ち上げ、多くのアーティストや団体と交流を持ちながら岩手の財産としての「岩手美術」を継承することに努めています。





# 絵画



## 習得可能な技術・主な設備など

【表現技法】観察素描／イメージドローイング／水彩／油彩／アクリル  
絵の具による絵画表現、複合媒体表現

【設備】デッサン室(共用)／絵画実習室／絵画演習室(冷暖房・換気システム)／イーゼル／制作スペース

描くことを通して  
新たな自分と出会う

油彩・水彩・アクリル絵の具などの多様な表現媒体を使用することで絵画制作の基本を学び、各自の制作主題にあった表現方法について研究を進めます。制作主題については、3・4年次における演習の授業で具体化し、自らの制作意図の言語化を試み、ポートフォリオにまとめます。絵画演習室または絵画実習室に制作場所を持ち、課題作品と自主制作作品を同時に制作します。課題作品は学外の会場での企画展、自主制作した作品は各種公募展・個展等に出品し、作品を通じて社会との関係性を築く活動に取り組みます。授業では、1年次から木炭デッサンや鉛筆デッサン等、絵画制作に必要な基礎部分の指導をしっかりと行います。その後の実習・演習の授業の土台として、また、美術の教員採用試験対策などにおいても重要な内容です。2年次以降、風景・人物・静物等の課題制作と、各自でテーマを設定した大作制作に取り組んでいきます。また、卒業制作のための先行制作調査や各自の制作記録をまとめ、卒業制作研究報告書及び作品制作に取り組み授業も行います。講評会の時間も設け学生同士による意見交流の場を持たせることで、自己の表現方法を見つめなおし、相互に生かし高めあうことも期待します。

## 学生インタビュー

Q あなたが「美しい」と感じるモノ・コトを教えてください。

昼過ぎから夕暮れの間生まれる陽射しや影、またそれらを包む空間。手入れの行き届いた道具や空間。広々とした余白のある澄んだ空間。

Q 岩手大学に入ろうと思った理由を教えてください。

高校生の頃、岩手大学の卒業制作展に訪れて出会った先輩方の作品や雰囲気、心地よさを感じたことが入学のきっかけです。

Q 今、行われている研究や制作について教えてください。

今は「光」をテーマに油彩などを用いた研究・制作を行っています。日常生活の中で美しいと感じる瞬間やモノを絵画として留めておきたいと思っています。



教育学部 佐藤 晴香

# 版画



習得可能な技術・主な設備など

【銅版画】ドライポイント／エッチング 【木版画】油性木版／水性木版  
【設備】銅版プレス機

刷り上がって  
初めて見える新しい世界

多様な版画表現の中から、前期は銅版画を、後期は木版画を学びます。銅版画は、厚さ1ミリにも満たない薄い銅版に描く世界です。ニードルで銅を引く掻く感覚、腐食という聞きなれない言葉、プレス機を回した時に軋む音など、作品を肌で感じながらつくり上げていく面白さがあります。授業では銅版を直接彫るドライポイント、腐食させて間接的に線を描くエッチングを中心に応用技法も学ぶことができます。一方で木版は、彫刻刀を使って彫った版木に絵の具をのせて紙に摺る技法。絵の具や紙の種類などわずかな違いによって表情が変わるので、とても繊細な技法です。油性木版から水性木版へと技法の幅を広げ、素材の扱い方の違いを体感していきます。履修対象は人文社会科学部の学生です。2年次から履修が可能で、いずれにおいても素材を版へ加工し刷る(摺る)技術を習得し、作品をつくり上げるまでを課題とします。制作と並行して版画作品の鑑賞もを行い、版表現への理解を深めます。

## 学生インタビュー

Q あなたが「美しい」と感じるモノ・コトを教えてください。

人の体の厚み、豊かさ。シンプルな形。愛情や信頼など人の感情、関係性。

Q 今、行われている研究や制作について教えてください。

卒業制作のテーマは「母性」です。人が抱く「大切にしたい」という気持ちや、そう感じられる関係性を木版画の持つ柔らかさで表現したいと考えています。

Q 将来やってみたい仕事や職業を教えてください。

美術教員になることが目標です。美術に関わることで得る豊かさを、子どもたちに気づいてもらえるようなきっかけを与えられる教員を目指しています。



教育学部 山仁 亜祐美

# 彫塑



## 習得可能な技術・主な設備など

【表現技法】人体彫刻／抽象彫刻／オブジェ制作／石彫／木彫／テラコッタ／金属彫刻

【彫塑付帯技法】石膏取りを中心とした型取り／金属熔接と溶断／石材加工

【設備や機材】フォークリフト／手動ホイスト式クレーン／アセチレン熔接／プラズマ熔接溶断／石材穴あけ機／サンドブラスト

## 全身を使い 生命を掘り起こす

人体彫刻を中心に様々な素材を使用した彫刻制作を行っています。卒業生との関わりも深く、在学生や教員と合同で野外展やギャラリーでの企画展なども行っています。それらは「彫刻のある街と市民文化の推進を願う」をテーマにした、彫刻シンポジウムの活動の一環でもあります。在学中は作品制作を通してアートと地域が関わりを持つことを体験し、創造することの意味や役割などへの考えを深めることが目標であり、それらを土台にして卒業後に生かせる学びにすることが目的です。卒業後の進路は教員が多く、岩手県内でも多くの卒業生が中学・高校の美術教員として活躍しています。また、イタリアの大学との相互の交換留学も行っており、全国的に見ても稀な国際交流を行う機会を設けています。授業では人体モデルも使用し、初期はクロッキーで立体の動きや捉え方を学びます。さらに頭部や全身と段階を経てテラコッタ粘土を使用した塑像での表現技術も学ぶことができます。2年次以降は、制作コンセプトの考察や素材研究が中心で、最終的には粘土や木材、石材などを用いた作品制作が課題となります。

## 学生インタビュー

**Q** あなたが「美しい」と感じるモノ・コトを教えてください。

アザラシの流線型。自然。フランソワ・ポンポンの作品。

**Q** 岩手大学に入ろうと思った理由を教えてください。

将来、美術の教員を目指していることから、「美術教育」について学びながら作品制作にも取り組める環境のある岩手大学に入学しました。

**Q** 今、行われている研究や制作について教えてください。

卒業制作に向けてアザラシをモチーフにした石彫を制作しております。「アザラシ」は私の生きがいです。今まで感じたことや学んできたことを作品に存分に込められるよう頑張っています。



教育学部 岡 真帆



# 金属工芸



## 習得可能な技術・主な設備など

【技法・技術】真土による込型鑄造技法／真土による蠟型鑄造技法／真土による惣型鑄造技法／ヨーロッパ式石膏鑄造技法

これらの原型造形、仕上げ加工、着色法など

【設備】60kg40kg定置型熔解炉／15kg地上型熔解炉／前面開閉式灯油陶芸窯／バンドソー／グラインダー／ボール盤／旋盤

## 金属を溶かし 新たなかたちを生み出す

美術鑄造技法を中心に、日本に伝わる伝統的な真土（まね）による込型技法、蠟型技法、惣型技法を使用し、作品制作を行います。併せて、ヨーロッパ式石膏鑄造技法によるロストワックスを用いた作品制作を研究することも可能です。作品制作を通して、鑄造技法の基本的な考え方、および原型造形法、鑄造技法、仕上げ加工法、着色法までの一連の制作工程の習得を目指します。ここで扱う金属は錫（ビュター）、青銅、真鍮、アルミなどです。また、自主制作においては自己の創造したい形に適した技法を追求することで発展的な表現方法を学び、卒業制作・論文に生かすことがねらいです。授業では、スライド写真や映像資料等を用いて学び、その後、課題作品の制作を通して学びを深めます。学べる場が日本全国で数少ない、金属工芸の一つである、鑄金という分野を通し、工芸という広い領域への理解を深めることが目的です。また、2年次以降、基礎から少しステップアップし、本格的な鑄造技法を取り入れた作品制作を課題とします。岩手県の伝統工芸品でもある南部鉄器も、鑄金技法により生まれるものです。生活に根付く工芸の魅力を知り学ぶことのできる内容です。

## 学生インタビュー

**Q** あなたが「美しい」と感じるモノ・コトを教えてください。

海や山、自然が感じられるモノ。手間がかけられていると感じるモノ。

**Q** 岩手大学に入ろうと思った理由を教えてください。

高校在学中に鍛金を学んだことで、金属を使った作品づくりに興味を持ちました。それ以来、大学では「鑄造」を学びたいと考え「金属工芸」を学ぶことができる岩手大学に入学しました。

**Q** 今、行われている研究や制作について教えてください。

今はランタンの制作を行っています。照明が好きなので、自分の手で作ってみようと思ったことが制作の動機です。



教育学部 田中 瑠乃

# 窯芸



## 習得可能な技術・主な設備など

【技術】手回し轆轤成型／電動轆轤成型／たたら成型／紐づくり成型／素焼き及び本焼き(酸化焼成、還元焼成、炭化焼成)など  
 【設備】電動轆轤／電気窯

## 土との対話を通して 自己を磨く

陶芸の基礎である土練り(荒練り・菊練り)から、手回し轆轤成型・電動轆轤成型・たたら成型・紐づくり成型などの各種成型方法、釉薬の基本的な考え方・使用方法、窯詰め、素焼きの焼成、本焼きの焼成、窯出し、仕上げ処理まで、作品制作を通して一連の制作工程を系統的に学び習得することが出来ます。窯芸の科目は人文社会科学部の学生が履修対象。2年次から履修が可能で、いずれの科目も実質的には陶芸を学ぶ内容です。知識の習得から作品の完成・提出までが課題となります。最初に日本のやきもの史の大まかな流れや主要な人物・出来事についての学習を行います。まずは自ら調べ発表しあい、それに補足するような形式で理解を深めていきます。実技では、様々な成型方法を学びます。課題作品は、花器など用途性のあるものから、オブジェのような自由な表現のものまで様々です。実際に土と触れ合いやきものに親しみながら制作します。土や釉薬、技法の組み合わせなどにより無限の表現が可能で、習得した技術をもとに、自分の創造したい作品のスタイルや特徴に合わせ、それを生かす技法や表現の追求ができるようになることが目標です。

## 学生インタビュー

Q あなたが「美しい」と感じるモノ・コトを教えてください。

自然の風景。自然の中にある幾何学模様。

Q 今、行われている研究や制作について教えてください。

紐づくりによる幾何学模様をモチーフとした陶器の制作研究をしています。紐づくりとは、紐状にした粘土を積み上げながら形を作っていく技法です。初歩的な技法ですが、簡単な形から複雑なものまで作ることができるとに惹かれています。

Q 将来やってみたい仕事や職業を教えてください。

大学での生活や授業を通して、盛岡の工芸に関心を持ちました。その素晴らしさを日本全国、海外に発信しながら、継承をサポートするような仕事に就きたいです。



教育学部 菅原 憲吾

# 染織



## 習得可能な技術・主な設備など

【ホームスパン】羊毛の種類や特性／用具の名称や使用方法／羊毛の染色／糸紡ぎ(紡毛機)／織り(高機)など

【繊維の分類】天然繊維と化学繊維

【織物の種類や技法】平織／綾織／綴織／シャギーなど

## 手づくりの温かみを知り 素材の力を生かす

繊維素材を用いた作品制作を行います。織りの基礎からホームスパンなど様々な技法について実技を通して学んでいきます。ホームスパンは古く英国から伝わり岩手県の特産品としても有名で、羊毛を染め、手紡ぎで糸にし、手織りで仕上げたものをいいます。手づくりの温かみを感じるところから始まり、造形表現についての研究・制作に取り組みます。羊毛に限らず、綿、麻、シルクなどの素材を使用し、風合いの違う布を制作することも可能です。染織の科目は人文社会科学部の学生が履修対象です。2年次から履修が可能で、いずれの科目も、知識の習得から作品の完成・提出までが課題となります。羊毛を好きな色に染色したり、糸車で糸を紡いだり、高機を使い織り上げたりと、設備あつてこそその貴重な体験ができるのが魅力です。自分自身の手でオリジナルの一点をつくり上げる手間や喜びを感じ、地域や社会・世界との関わりを学び、考えを深めることができます。授業での学びを生かし自主制作を行うことも可能です。サイズの大きな作品や、厚みのある絨毯、複雑な柄が出るよう工夫した織物など、様々な制作にもチャレンジすることができます。

## 学生インタビュー

Q あなたが「美しい」と感じるモノ・コトを教えてください。

素朴で力強く見えるモノ。シンプルで手間のかかっているモノ。歴史を感じられるモノ。山と田んぼのある風景。

Q 今、行われている研究や制作について教えてください。

羊毛を用いた敷物の制作を行っています。染織を学ぼうと思ったのは「今、この環境でしか勉強できないかもしれない」と考えたからです。大学には自分で揃えるには難しい設備や環境が整っています。

Q 将来やってみたい仕事や職業を教えてください。

仕事として、趣味として、どんな関わり方でも、羊毛に携われることをこれからも続けていきたいです。



教育学部 山口 桃果

# インダストリアルデザイン



デザインを学び  
人や社会をより良くする

主に、民間企業や自治体とのプロジェクトを通して、従来ない商品の企画やデザイン提案、研究を行っています。具体的には、食品等のパッケージ、輸出用の南部鉄器や子供用の木工玩具、スマートフォンやタブレット端末を用いた取扱説明書など、デザインする分野は多岐に渡っています。博士や修士の大学院生には、留学生在が多く国際色豊かな環境です。就職先も世界的に有名な企業で海外勤務をする卒業生もいれば、岩手大学の特長であるグローバルズムを学び、地域の自治体や広告代理店等に進む学生もいます。デザインは、ひとりです仕事ができる分野ではありません。時にはひとつの商品をデザインするために1000人以上の人々が関わることもあります。したがって、デザインの技術も大事ですが、人とのコミュニケーションや、アイデアを練るブレインストーミングの訓練も重要です。これらのスキルを効果的に学ぶため、授業では学外の講師を招くこともあります。また、民間企業とのプロジェクトを授業と連携して行うこともあり、通常の講義とは違った緊張感も体験的に学べるようにしています。



## 習得可能な技術・主な設備など

3Dプリンター(立体物のスキャニング、PCデータの造形化)／3Dソフト(Alias)／画像加工ソフト(Photoshop)／グラフィックデザインソフト(Illustrator)／レーザーカッター(木材、プラスチック、アクリルの加工や切断)／真空生成機(熱によるプラスチックの加工)／大型プリンター



## 学生インタビュー

**Q** あなたが「美しい」と感じるモノ・コトを教えてください。

水に光が反射してきらきらしているところ。透明なもの。波々のかたち。

**Q** 今、行われている研究や制作について教えてください。

盛岡市との共同研究で、誰でも簡単に組み立てられるようなデザインを意識したペンを制作しています。

**Q** 将来やってみたい仕事や職業を教えてください。

食品のパッケージデザインに関わる仕事に就いて、食べ物より美味しそうに見せたり、たくさんの人に「買いたい」と思ってもらえるようなパッケージを作りたいなと思っています。パッケージデザインによって、岩手、東北の食べ物を全国に伝えていきたいです。



教育学部 田中 美月

# ヴィジュアルデザイン



## 習得可能な技術・主な設備など

【基礎知識】デザインの歴史と思想／色彩学とその基礎的な応用力  
 【基礎技術】画像制作技能(PhotoshopやIllustrator)／インタラクティブなアニメーション制作技能(Animate)／3Dコンテンツ制作技能／Webデザイン・映像編集の基礎技能／漫画や映像・アニメーション制作の高度な技能／プログラミングに関する基礎技能



人文社会科学部 寺田 ゆりか

## 学生インタビュー

Q あなたが「美しい」と感じるモノ・コトを教えてください。

ホログラムのような見方によって変化する色。透け感のある色。鮮やかな水彩画。

Q 岩手大学に入ろうと思った理由を教えてください。

高校生の頃、美術部に所属し、絵を描いていたので、生まれ育った地元で絵を学びたいと岩手大学に入学しました。また、キャンパスが自然に囲まれているという制作環境も入学を希望した理由のひとつです。

Q 今、行われている研究や制作について教えてください。

ポスターやチラシなど広告デザインの制作に挑戦しています。現在は、「デジタル工作体験スペース「ファブテラスいわて」での実践活動にも携わっています。

自由な発想で新しい  
視覚伝達のかたちを見つける

色と形に関わる基礎造形からデザインやアート、そしてサブカルチャー(視覚文化)についての制作研究を行っています。イラストレーション、漫画、グラフィック・広告デザイン、映像・アニメーション、Webデザイン、メディアアート、ゲーム、フィギュア、コスプレなど、幅広い領域を扱っており、各自の興味・関心を掘り下げることで研究を展開しています。岩手大学の「地域課題解決プログラム」等で学外の人と連携し、地域のために役立つコンテンツづくりを考える取り組みを行うなど、自己表現的な制作だけでなく、地域のためのプロジェクトを進めていくことで、企画力のある人材の育成も行っています。授業では、1年次でグラフィックデザインやアニメーションに関する初歩的な制作体験をします。2年次以降では基礎理論を含む授業でデザインに関する知識を拡充するとともに、実技科目で基礎レベルの制作をします。その後の実習では、地域課題等に関わり、企画提案の訓練や発展的な各自の制作課題を実施します。加えて、漫画やアニメーションの人物表現にも必要な人体デッサンや動画編集などの演習により、卒業研究に向けて基礎技能を修得します。

# 美術教育



## 習得可能な技術・主な設備など

学校教育などの教師としての知識と技術習得／教材の制作にかかわる用具や機械／附属小学校や附属中学校の図画工作科や美術科と連携した研究

自己を知り、社会を学び  
美術教育のあり方を研究する

幼稚園・小学校・中学校・高等学校における美術の教育を研究します。また、学校教育だけでなく、社会教育など学校外の美術についても学ぶことができます。具体的には、絵画・彫刻・工芸・デザインなどの教材の制作研究や授業研究、美術教育の思想・歴史などの理論研究を行います。卒業生の進路は、幼稚園・小学校（全科・図工専科）などの教員だけでなく、大学で教員養成を担う研究者や美術館における教育普及担当者など、人と美術をつなぐ職業に就くことができます。また、学校の美術室を利用して自己の制作に邁進する学生もいます。美術教育の授業では、理論と制作の両面から美術の授業について考えます。美術のことは、言葉や写真・映像では十分に説明することができないことが多いため、素材や道具を実際に扱い、「手で考える」ことを重視した演習を多く行います。また、理論に関する授業では、教師としての主義主張を理解することを重視しています。美術の多様性を人に伝えるには、自己の思想を明確にした上で、他者の考えを受け止める必要があります。そうした自己と他者へのまなざしを大切にしたい授業を行っています。

## 学生インタビュー

Q あなたが「美しい」と感じるモノ・コトを教えてください。

驚いたり楽しんだりできるコト。見る人を驚かせ、楽しませるような不思議なモノ。

Q 今、行われている研究や制作について教えてください。

木材を使った作品を制作し、小学校図画工作の教材研究をしています。本を読んだり学ぶだけでなく実際に材料に触れることで、よりよい教材研究を行うことができます。

Q 将来やってみたい仕事や職業を教えてください。

大学で学んだ教育と美術の知識を生かして、小学校図画工作の教員になりたいと思っています。子どもたちが楽しみながら勉強できる授業を行いたいです。



教育学部 小田中 恭介

# 美術史



## 習得可能な技術・主な設備など

美術史学とその周辺分野(歴史学・美学等)に関わる総合的知識/視覚・文字資料の分析能力/論理的思考力/文章力

作品に隠された歴史、風土、作者の想いを解明する。

美術史学は、現存する美術作品の調査分析を通して、知られざる人類の歴史の一端を明らかにすることを目的とした学問です。根拠のない印象批評とは異なり、実証的に論じることが常に求められます。この学問の面白さは、作品そのものだけではなく、作品が制作された当時の人々の生活について思いをめぐらせ、自ら解き明かしていく作業にあります。学生は古今東西の絵画、版画、彫刻、工芸など、視覚芸術の様々なジャンルから、自身の興味、関心に基づき、研究テーマを自由に設定することができ、各自のテーマに沿った指導が行われます。授業ではまず、学びの導入として、体験型実習を通して美術史学の方法論を習得します。次に、西洋美術を古代から近代まで時系列に概観し、現代に至る美術の流れを理解することを目指します。これらを踏まえ、卒業研究を視野に入れ、先行研究の批判的考察を行い、美術作品の分析に必要な実践的能力を身につけます。美術史研究では、美術作品を自身の目によって実際に観察し、新しい発見を積み重ねていくことが基本であり、最も重要です。また、これを通して得られる感動と学びを重視し、研究活動の一環として、岩手県内外の美術館や神社仏閣等の見学を行い、作品について学生同士で発表・議論等を行う機会も設けています。

## 学生インタビュー

Q あなたが「美しい」と感じるモノ・コトを教えてください。

全体を通して必然性を感じることでできるものと、逆に不自然さを感じるもの、その両方。

Q 岩手大学に入ろうと思った理由を教えてください。

大学では美術以外の分野も学びたいと考えて、教育、人文社会、農学、理工など様々な学部のある岩手大学を選びました。

Q 今、行われている研究や制作について教えてください。

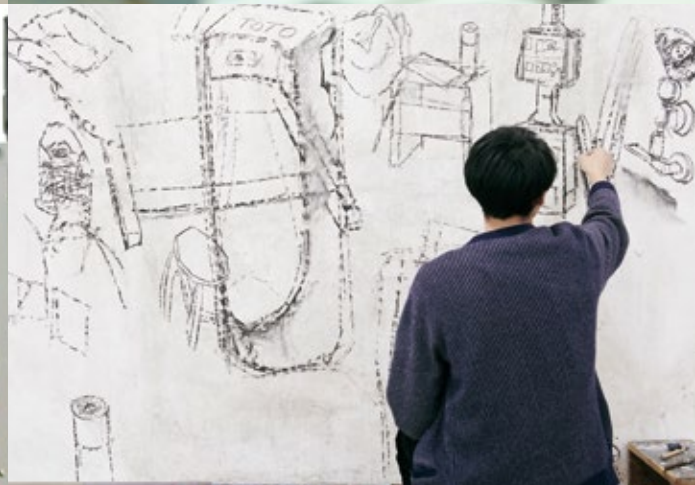
美術史は、美術に関して自分がおもしろいと感じたことや不思議に感じたことを調査する分野です。苦手意識のあった文章も、自分の好きなことについて書いていくうちに、克服できるようになりました。



教育学部 竹田 なづな







岩手大学の最新情報は、ウェブサイトや大学案内をチェック!

入学試験やイベント、オープンキャンパスなど受験生に役立つ情報が満載。

本誌と併せてご覧ください。

岩手大学 ウェブサイト



<https://www.iwate-u.ac.jp/>

岩手大学 大学案内



岩手大学ウェブサイト内から資料請求できます。

最新情報のご案内

歴史と文化と伝統が色濃く残る街、盛岡。

学生は、日々変化する四季折々の自然を感じながら、

のびのびと美術を学んでいます。

航空機をご利用の場合

札幌(新千歳空港) …… 約55分 ……  
 大阪(伊丹空港) …… 約80分 ……  
 名古屋(名古屋空港) …… 約70分 ……  
 福岡(福岡空港) …… 約120分 ……

いわて  
花巻空港  
特急バス  
約45分  
盛岡駅

新幹線をご利用の場合

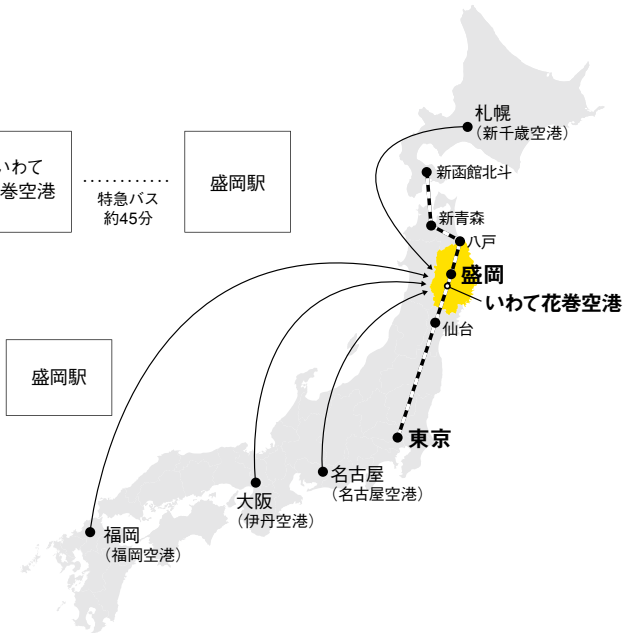
[東北新幹線(下り)] 東京駅 …… 約133分 ……  
 [東北新幹線(上り)] 新青森駅 …… 約67分 ……  
 [秋田新幹線] 秋田駅 …… 約86分 ……

盛岡駅

高速道路をご利用の場合

[東北自動車道]  
 浦和IC …… 約390分 ……  
 [八戸自動車道]  
 八戸IC …… 約90分 ……

盛岡IC



盛岡駅から岩手大学まで

[バスをご利用の場合]

人文社会科学部・教育学部・農学部  
 盛岡駅前東口バスターミナル11番乗り場より  
 「岩手県交通バス 駅上田線 松園ターミナル行き」または  
 「岩手県交通バス 駅桜台団地線 桜台団地行き」乗車、  
 「岩手大学前」下車(所要時間約15分)、徒歩1分

理工学部

盛岡駅前東口バスターミナル11番乗り場より  
 「岩手県交通バス 駅上田線 松園ターミナル行き」乗車、  
 「上田四丁目」下車(所要時間約15分)、徒歩3分。または  
 「岩手県交通バス 駅桜台団地線 桜台団地行き」乗車、  
 「理工学部東口」下車(所要時間約15分)、徒歩2分

[タクシーをご利用の場合] 盛岡駅から約2km(約10分)

[徒歩の場合] 盛岡駅から約2km(約25分)

ご注意

- ・ 本誌掲載内容は、取材時の情報をもとに制作されたものです。学部・学科の改組により、カリキュラムや各種名称など変更する場合がございます。入学に関する事、取得できる免許や資格、就職情報など、重要な情報につきましては、岩手大学公式サイトもしくは岩手大学学校案内をご確認するようお願いいたします。
- ・ 本誌の無断複製・無断転載を禁じます。

岩大美術

2019年3月 発行

岩手大学  
 TEL 019-621-6581  
 (岩手大学内 美術合同研究室)

[制作スタッフ]

アートディレクション  
 清水真介 (homesickdesign)

デザイン  
 鈴木駿一 (ichigram)  
 写真(P16~21、P50を除く)  
 吉田健太郎

取材・編集(P2~19)  
 宮本拓海 (cokage studio)

編集協力  
 鈴木久枝



〒020-8550 岩手県盛岡市上田三丁目18番8号



